

地域支援部だより

宮城県立石巻支援学校

令和6年2月15日発行



居住地校学習「会いたかったよ!」・・・直接交流が再開されました

今年度も、小・中学部のたくさんの児童生徒が、御家庭の希望に応じて居住地校学習をすることができました。4年ぶりに再開された居住地校に出向いて交流する直接交流や、手紙や作品、ビデオレターのやり取りやオンラインを通して交流する間接交流に取り組みました。児童生徒一人一人に応じた無理のない日程や方法で、居住地校の友達との関わり実感や喜びが得られるような交流をすることができました。受入校にとっても、同じ居住地に住む本校の児童生徒について知り、関心を持って理解してもらう良い機会になったようです。保護者の皆様には御理解と御協力をいただき、誠にありがとうございました。次年度も引き続き、御家庭の希望と受入校の状況等に応じて、直接交流または間接交流を選択できるようにしていきたいと考えています。どのような交流になっても、地域の子供たちとの関わりが継続でき、交流がより深まる取組になるよう更に工夫したいと思います。



中学部棟1階の
居住地校学習紹介コーナー

居住地校学習は、共に学び共に育つ共生社会を作っていくために、とても大切な活動です。子供たちが「**地域の中で、みんなと一緒に**」生活する、過ごしやすい社会にしていきたいため、地域とのつながりをこれからも持ち続けていただければと思います。

小学部から中学部2年生のお子さんには、個別面談後に、次年度に向けて希望調査を配布します。継続して交流することで、関わりがより深まるようです。また、今年度は実施しなかったお子さんも、次年度は是非交流してみしてほしいと思います。なお、御不明なことや不安なことなどありましたら、担任を通じて御相談ください。

「居住地校学習」で、こんな良かったことがありました!



～担任の声～

<小学部>

- 😊 [間接交流] 動画視聴が好きな本校の児童のために、受入校でビデオレターを作成してくれました。児童はうれしそうに何度も繰り返し見て、受入校の友達にプレゼントする作品作りに取り組むことができました。
- 😊 [直接交流] 久しぶりの直接交流でした。低学年の頃に直接交流をしたことを受入校の児童が覚えており、「大きくなったね。」「久しぶり。」など声を掛けてもらいました。
- 😊 [直接交流] 本校の児童は天候が悪いために大泣きして受入校に到着しました。しかし、受入校の児童が、クイズに正解した児童へ折り紙をプレゼントしてくれて、少しずつ笑顔になりました。集合ゲームでは児童の手を取って輪に入れてくれたり、バルーン遊びでは寝転ぶときに隣に呼んでくれたりと、たくさん声を掛けてくれました。
- 😊 [直接交流] 受入校の児童にたくさん声を掛けてもらい、すぐに輪の中に溶け込んでいました。2回交流しましたが、本校の児童は1回目の交流をよく覚えていて、2回目の交流がより充実しました。
- 😊 [直接交流] 受入校の児童が、本校の児童について担任の先生に質問する姿をたくさん見ました。進んで挨拶したり声を掛けてくれたり、「活動を一緒にしよう」と積極的に声を掛けてくれたりと、温かい交流ができました。

<中学部>

- 😊 [間接交流] ビデオレターの交換をしました。本校の生徒は受入校のビデオレターをうれしそうに見ました。受入校の生徒は本校のビデオレターを見て「すごいね。」などと感心しながら、手紙を書いてくれました。会えませんが、ビデオレター交流で親近感を持ち、本校の生徒の日頃の良い姿を見てもらうこともできました。
- 😊 [間接交流] オンライン交流をしました。お互いに一人一人自己紹介をした後に、本校の生徒はソーランと元気太鼓を披露しました。オンライン上で挨拶を交わしたりして楽しく交流することができました。

- 😊 [直接交流]初めての直接交流でしたが、温かく迎えていただき、本校の生徒もすぐに慣れて楽しく交流することができました。交流で行ったゲームも、本校の生徒が楽しめるものを用意してくださいました。
- 😊 [直接交流]通常の学級との交流で、小学校以来の再会でしたが、安心して活動できました。受入校が丁寧に準備してくれたので、本校の生徒はイヤーマフを外して不安なく交流することができました。
- 😊 [直接交流]受入校の先生が、本校の生徒の得意分野を上手く授業に取り入れて、生徒同士で協力し合う学習活動を用意してくださいました。本校の生徒も力を発揮することができ、有意義な交流になりました。

～受入校の先生方の声～

- 😊 交流が決まったときから、児童は「久しぶりに支援学校の友達に会うことができる。」と大変うれしそうな様子でした。当日、初めのうちは緊張しているようでしたが、徐々に打ち解け、応援したり声を掛けたりと楽しそうに交流する姿が見られました。
- 😊 久しぶりの直接交流で、互いの成長を実感しているようでした。どのような接し方をすれば良いのか、児童たちなりに考えていました。「中学校でも交流できないかな。」と楽しみにしています。
- 😊 児童は「友達が増えるね。」と喜んでいました。写真やプロフィールを見て、どうしたら喜んでもらえるか考えながらビデオレター作りに取り組みました。ビデオレターを受け取った支援学校の友達の様子を伝えると、とてもうれしそうな様子でした。
- 😊 交流できる時間は短かったですが、同じ小学校だった生徒が「久しぶり!」と声を掛けたり、会いに来たりと自然に交流していたように思います。交流した学級の生徒は、一緒に活動できることや、自分たちのことを紹介できることを楽しみにしていました。当日も楽しく交流することができていました。
- 😊 生徒達に居住地校学習の目的を説明することで、どのような内容や準備をすれば支援学校の友達に楽しんでもらえるのかを、生徒が意欲的に考えることができました。当日も、一緒に楽しく交流することができました。
- 😊 1年に2回の交流ですが、生徒達はとても楽しんでいました。特に、手話やマカトンサインに興味をもった生徒達が楽しそうにまねをして、支援学校の友達と交流しようとしていました。

令和5年度保護者対象研修会

「いいところ」に注目して、親子で笑顔に

～開放講座「ペアレント・プログラム研修会」

11月に、保護者対象の開放講座「ペアレント・プログラム研修会」を実施しました。今年度は本校だけでなく、石巻圏域の保護者の方にも御参加いただきました。講師に、石巻市かもめ学園の発達障害者地域支援マネージャー安藤奈緒也さんをお招きし、ペアレント・プログラムの概要や、よい行動をほめる方法などについて、実践を交えながら分かりやすくお話いただきました。普段当たり前にやっていることや、少しでもやろうと努力しているところを「いいところ」と捉えて注目し、子供が喜ぶ方法で「望ましい行動の直後にほめる」「よい行動を具体的に伝えてほめる」という“ほめ方のコツ”を教えていただきました。また、困った行動への対応として、事前の工夫の例もお示しいただきました。



参加された方からは、「自分のいいところ、子供のいいところを見つけるのは本当に難しいと思いました。ほめることの大切さなど、いろいろお話を聞いて参考になりました。」「実際にかもめ学園で取り入れている支援の工夫を紹介しながら説明していただき、分かりやすかったです。感情的に叱ってしまうのではなく、望ましい行動が増えるような声掛けを考えていきたいです。」など、研修会に参加して良かったという感想がたくさん寄せられました。

地域支援部では、就学や学習、生活上で困っていることなど様々な相談に応じています。校内の支援室に担当の職員（地域支援コーディネーター）がおりますので、保護者の方も相談したいことがありましたら、どうぞ身近な相談者としてお話しください。一緒に困っていること、不安なこと、対応の仕方などを考えるお手伝いをさせていただきます。

担当：地域支援コーディネーター 及川美和 早坂順子